

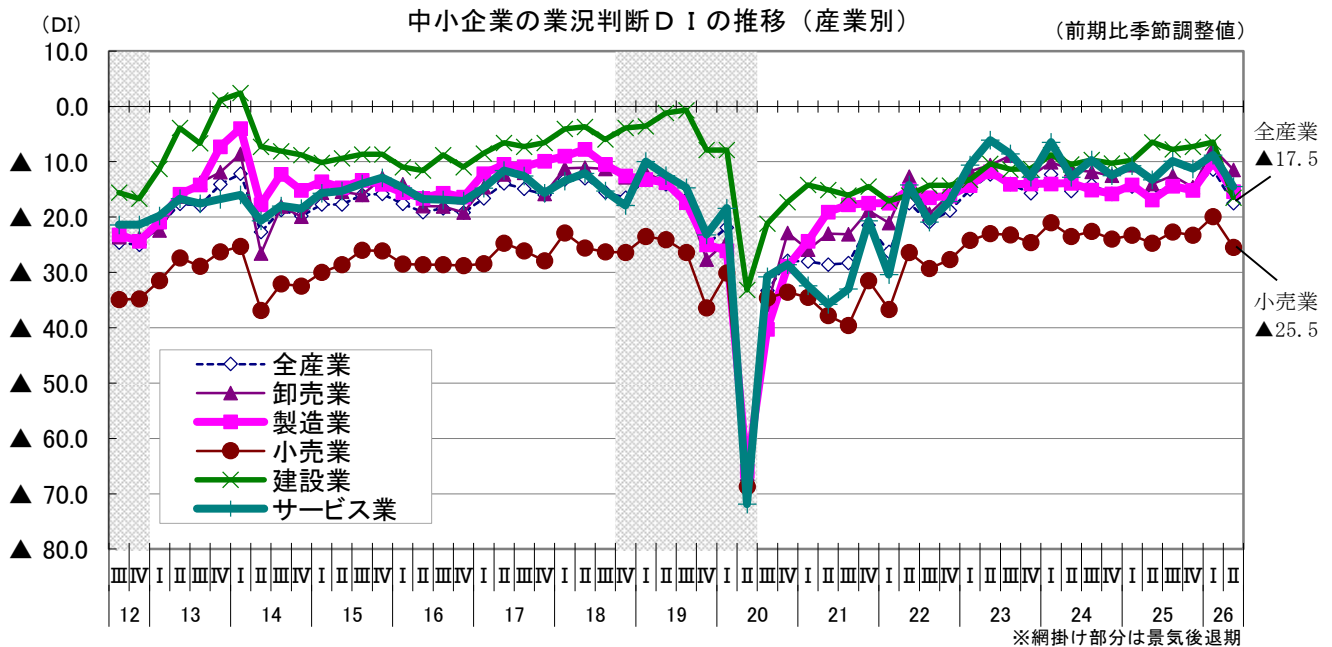
2026年6月
(前期比季節調整値版)

第184回 中小企業景況調査報告書
(2026年4-6月期) 〈小売業編〉

※DIとは…
「好転」と回答した企業の割合-「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

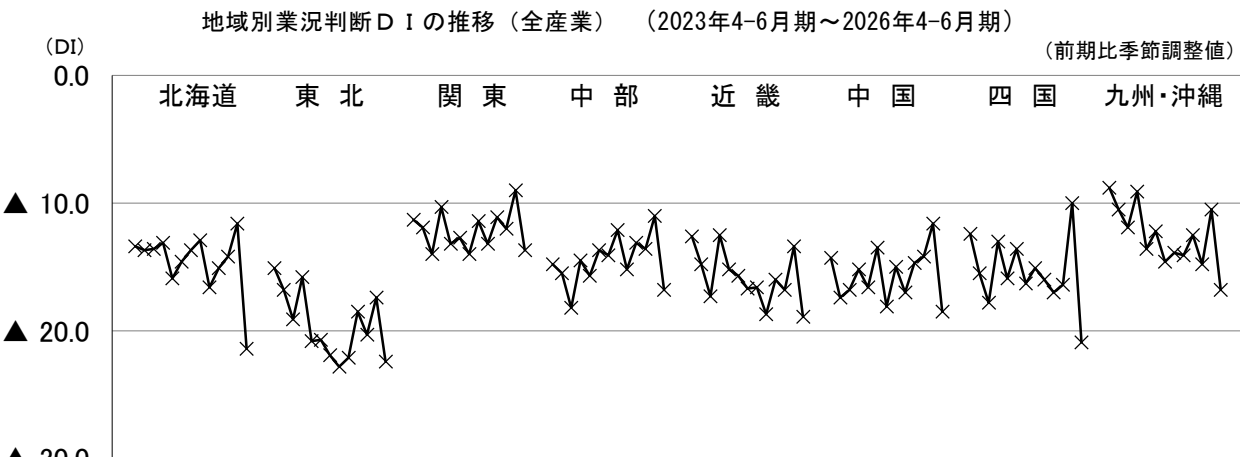
独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル
E-mail: chosa@smrj.go.jp
https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。
前期と比べた全産業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。(▲11.4→▲17.5)



〈地域の業況〉

四国、北海道、中国、九州・沖縄、中部、近畿、東北、関東のすべての地域でマイナス幅が拡大した。



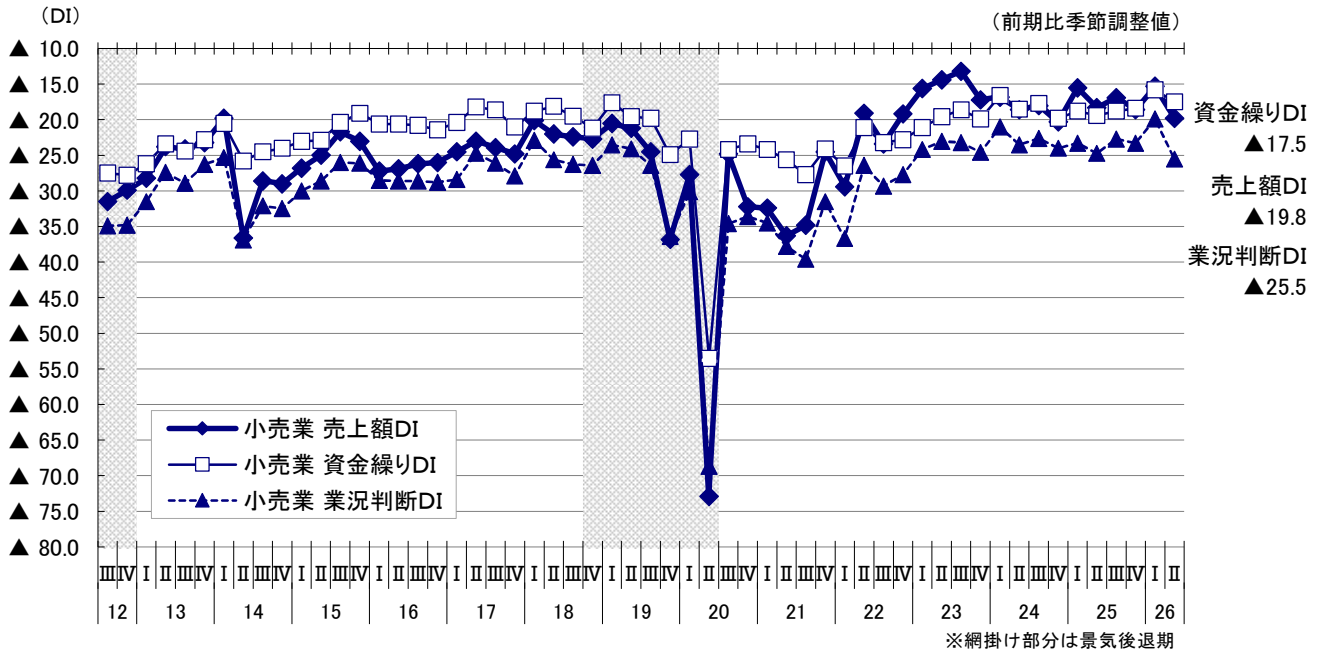
(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合。

1. 小売業の動向

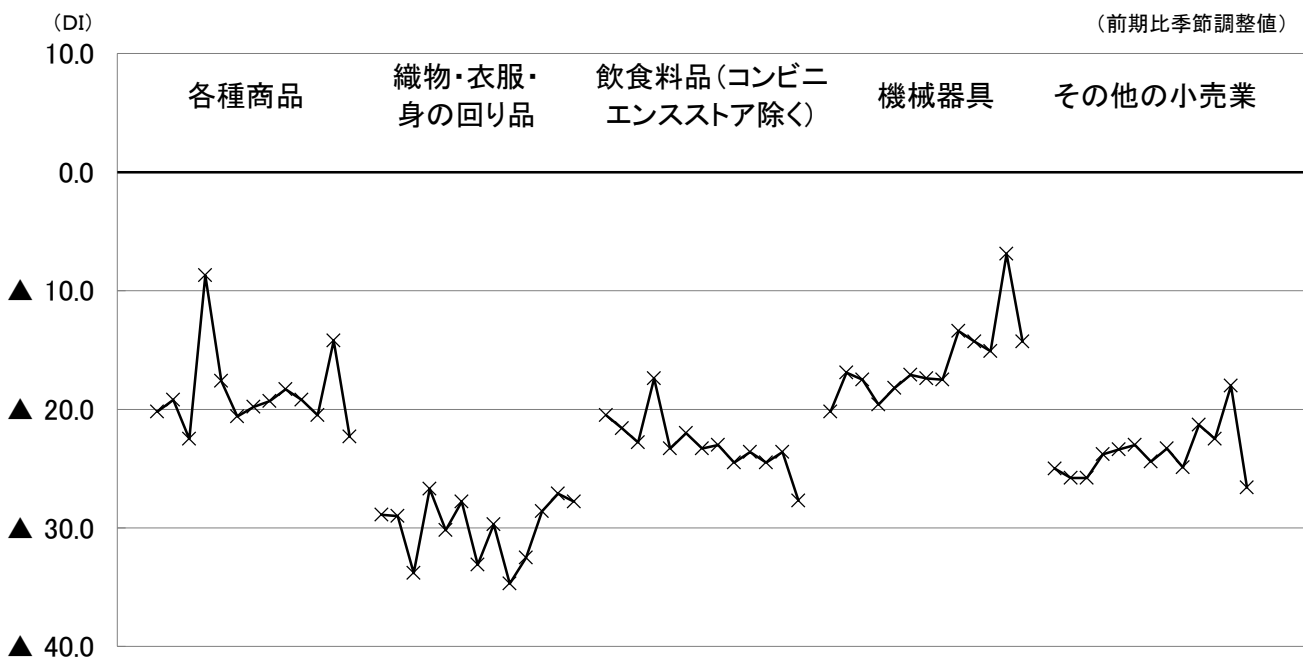
小売業の業況判断DIは、小売業で▲25.5(前期差5.6ポイント減)と2期ぶりにマイナス幅が拡大した。

売上額DIは▲19.8(前期差4.5ポイント減)と2期ぶりにマイナス幅が拡大した。また、資金繰りDIは▲17.5(前期差1.7ポイント減)と4期ぶりにマイナス幅が拡大した。

業況判断DIを業種別に見ると、その他の小売業で▲26.6(前期差8.6ポイント減)、各種商品で▲22.3(前期差8.1ポイント減)、機械器具で▲14.3(前期差7.4ポイント減)、飲食料品(コンビニエンスストア除く)で▲27.7(前期差4.1ポイント減)、織物・衣服・身の回り品で▲27.8(前期差0.7ポイント減)とすべての業種でマイナス幅が拡大した。



小売業 業種別 業況判断DI (2023年4-6月期~2026年4-6月期)



2. 小売業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、小売業全体で11.8%（前期差0.7ポイント増）とやや増加した。

（単位：％）

	2025年 4-6月期	2025年 7-9月期	2025年 10-12月期	2026年 1-3月期	2026年 4-6月期
各種商品	12.2	14.6	10.6	12.9	15.8
織物・衣服・身の回り品	8.0	9.2	9.5	6.5	8.3
飲食料品 （コンビニエンスストア除く）	12.9	13.0	12.4	11.8	10.7
機械器具	12.3	16.4	17.5	13.6	15.8
その他の小売業	13.7	13.8	16.8	11.3	12.9
小売業計	12.3	13.1	13.9	11.1	11.8

3. 小売業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「仕入単価の上昇」が1位、「消費者ニーズの変化への対応」が2位、「需要の停滞」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (4-6月期)	仕入単価の上昇 (32.4%)	消費者ニーズの変化への対応 (11.5%)	需要の停滞 (10.8%)	購買力の他地域への流出 (7.8%)	大中型店の進出による競争の激化 (6.9%)
前期 (1-3月期)	仕入単価の上昇 (26.9%)	消費者ニーズの変化への対応 (13.1%)	需要の停滞 (12.8%)	購買力の他地域への流出 (8.2%)	大中型店の進出による競争の激化 (7.5%)

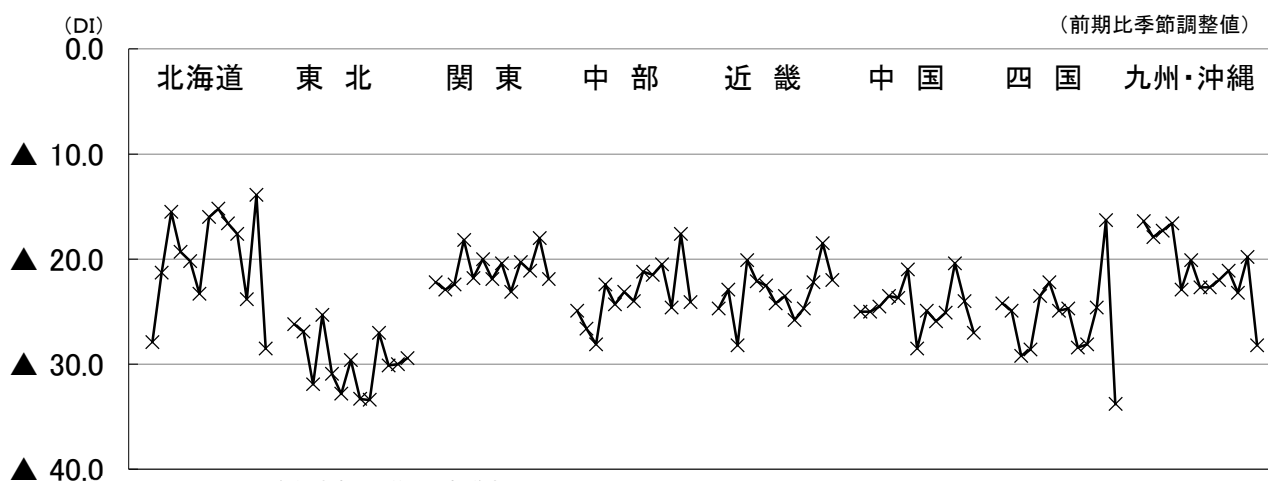
4. 小売業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、東北でマイナス幅が縮小し、四国、北海道、九州・沖縄、中部、関東、近畿、中国でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

小売業

（2023年4-6月期～2026年4-6月期の動き）



（注）1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

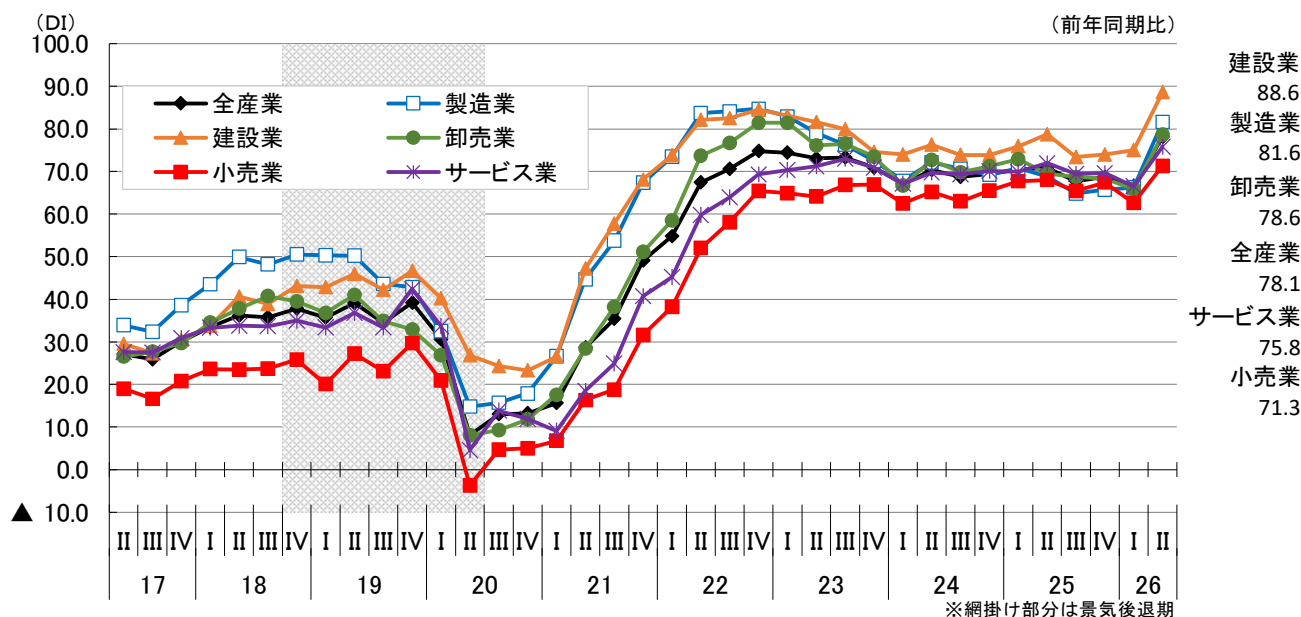
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

5. 小売業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、71.3（前期62.6、前期差8.7ポイント増）と上昇し、2期ぶりにプラス幅が拡大した。

産業別原材料・商品仕入単価D Iの推移



【調査対象企業のコメント】

- ・ 低価格帯の包装資材が軒並み欠品、来月にはラベルシールやレシート、レジ袋の仕入価格が値上げになる。高騰した分を売価に転嫁すると買い控えに繋がりがかねない。今後、売上と利益の両方を維持していけるか非常に不安。
[道北・オホーツク]
- ・ 大型・中型店が進出している中、商品単価の上昇や身近な商品であるゴミ袋がナフサの影響で仕入ができない状態であるため、顧客離れが起きている。[青森]
- ・ ナフサの影響によるラベルや包材の値上げ、円安による肥料等の価格高騰で経費の増加が著しい。また、一般顧客の節約志向が徐々に高まっているように感じる。[群馬]
- ・ 中東情勢の影響を受け、塗装材料や合板、ウレタンの納期遅延及び仕入価格が上がっている。今後、商品の売価に転嫁していく必要があるが、さらなる需要の停滞を招く恐れがあり、価格転嫁の程度の見極めが難しい。[石川]
- ・ 近隣医療機関への患者数が減少しており、当所への患者数も減少している。また、石油関連製品の影響により、当所で扱う消耗品も入手しづらくなってきて苦労している。[兵庫]
- ・ 仕入単価の値上げが何度もあり、ここ最近は今までと比較してかなり大幅な値上げのため、自社商品の値上げが追い付いていない。既存のお客様の購買力も低下している。[山口]
- ・ 2027年4月から家庭用エアコンの新たな省エネ基準が適用されることに伴い、買い替え・更新需要は高まっているものの、低価格帯を中心に在庫確保が難しくなっている。[愛媛]
- ・ 中東情勢による仕入単価の上昇が激しい。特に主力商品であるからあげ弁当の鶏肉の高騰が激しく、仕入れ値が約3倍値上がりしている。また、鶏肉や梱包資材が入手困難で経営状態は厳しい状況である。[大分]

【調査要領】

- (1) 調査時点：2026年6月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,834のうち有効回答17,734（有効回答率94.2%）